

第4回 新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会 審議結果

日時：平成24年11月29日（木）13:00～16:00

場所：新大阪ステーションホテルアネックス 2階 平成の間

出席者：阪田憲次座長、浅井敏彦委員、鎌田敏郎委員、河野広隆委員、佐々木隆委員、箱石憲昭委員、片平博委員代理 ※渡辺博志委員の代理で片平氏が出席

資料：資料1 議事次第
資料2 洪水吐きゲート操作性について
資料3 堤体下流面の漏水について
資料4 現地状況について

審議内容

1. 洪水吐きゲート操作性に関わる現象について

平成23年12月末からのトータルステーション計測結果やその他計測データ等を基に堤体挙動の原因を審議した。

また、洪水吐きゲートの操作性を確保するため、門柱の変位を抑制させる方法について審議した。結果は以下のとおり。

- ・計測データ等によれば、門柱変位の累積は続いている。
- ・門柱に累積変位を生じさせる原因を現段階で特定することは困難であるが、変位を抑制するための暫定的な対策として、既設管理橋の橋桁の間詰めにより橋軸方向に連結させる対策工事を実施することとする。施工方法や、施工後のモニタリング方法については今後検討していく。

2. 堤体下流面からの漏水の現象について

堤体の代表ブロック（2BL、3BL、5BL）で実施したボーリング調査結果について報告した。

また、堤体の衝撃弾性波探査結果とボーリングコアや孔内カメラ観察による水平打ち継ぎ面の状況を対比した結果を報告（中間報告）した。

審議の結果、今後、衝撃弾性波探査による水平打ち継ぎ面の探査結果とボーリング調査結果を対比することで、水平打ち継ぎ面の状態評価区分を作成し、堤体の安定性評価を進めることとした。

3. 現地状況について

ゲート戸当り整備工事の予定について報告した。

戸当りの更新において、戸当りを撤去した時のゲートの挙動を把握するため、施工前後においてゲートの状態確認を行っておく必要があるとの指摘があった。

4. 今後のスケジュールについて

- ・第5回検討会は次年度の8月以降に開催予定とする。

（以 上）